

(別紙1) いじめの未然防止

1 教科・科目等

学校の授業においては、すべての生徒が参加・活躍できる授業を工夫し、わかる授業づくりを進める。そのため、公開授業週間を年2回設定し、研修する。

2 総合的な探究の時間

本校の総合的な探究の時間で実施する「商品開発」や「進路探究」、「地域貢献探究」においては、社会人との交流が図られる絶好の機会であるので、活動の重要性を事前に十分自覚させ、積極的に取り組むように指導する。また、この学習における発表活動等において、コミュニケーションスキルの向上に配慮する。

3 特別活動等

学校の特別活動においては、心豊かに思いやりにあふれた社会人の育成のため、道徳教育や体験活動の充実を期す。

① ホームルーム活動

ホームルーム活動においては、望ましい人間関係を形成し集団の一員としてよりよい生活づくりに参画し、自主的で健全な生活態度を育成すべく、次の内容において、当該担任のみならず関係分掌や教科担任等が積極的に資料提供したり、個々の授業で適切に触れることを行うものとする。

- ア 青年期の悩みや課題とその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参画
- キ 国際理解と国際交流
- ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立
- ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立

② 生徒会活動

生徒会活動においては、望ましい人間関係を形成し協力して諸課題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。特に、生徒が自主的に行う活動への支援を行う。

③ 学校行事

学校行事においては、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い協力してよりよい学校生活を築こうとする実践的な態度を育てる。

特に、体験入学会における生徒の主体的な運営は、高校生としての自負心や自信の育成につながるよう配慮すること。

④ 部活動

学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するように努めるとともに、自主性・自律性や不屈の精神の育成を目指す。

⑤ ボランティア活動

異学年との交流はもとより地域の人々や小中学校児童生徒との交流などを経験できる機会に積極的に参加させ、さまざまな世代との交流を体験させ、自己有用感の醸成に努める。

4 インターネット、スマートフォン等

いじめの多くがインターネットに起因する現状を鑑み、あらゆる機会を通じてインターネット等を通じた書き込みやその使い方等に関する指導並びに注意喚起を行うものとする。